2026年8月26日 『朝礼時講話～連絡事項』

(1)講話【祖電さんがみせた「言葉を超えた豊かな世界観」】

今月は朝礼を予定していた日にR.Yさんのご葬儀が重なり今日まで延期になっていました。

では、始めて参りますが、去る8月23日は、元理事長兼前苑長の太田祖電さんの祥月命日でありました。そこで、久しぶりに祖電さんの思い出話を今日はしたいと思います。

祖電さんは光寿苑ショートステイをしばらく利用し、2015年1月より施設入居となり苑生活を送っておりました。暮らしの中の日課と言えば、長年のルーティンでもあった新聞に目を通す事と、「正信偈」(浄土真宗)のお勤めをベッド上や車いす離床しながら、毎日欠かさず行っていました。随分とお勤めの声はか細く、つぶやくような呼吸で読み上げている姿が印象に残っています。ある日の事。

「今日は身体の調子もいいので、仏間でお勤めをあげたいのですが、連れて行ってもらえませんか。」

と介護職員に要望したのです。車いすで仏間に行き、合掌の後、鐘を打ったのですが、元々難聴だった事もあってかなり強い力で、**〝カ～ン！カ～ン！〟**と、どデカい音が苑内に響き渡ったのです。すると、ベッドで横になっていたり居室にいらした他のお年寄りたちが、

「あら、お勤め始まった！起ごしてけろ。」

「盆って彼岸って家さお参りに行がねんでさんたがら、ここで拝んでもらう！」

等々、様々な思いをもって、このホール（仏間）に自然発生的に15～16人のお年寄りが集ってきたのです。耳の遠い祖電さんは全くそれに気づかないままお勤めを静かに続けていました。しばらくしてお勤めが終わり、祖電さん、後ろを振り返ってそこで初めて、沢山のお年寄りと数名の職員の存在に気づいたのです。すると祖電さん、慌てる様子もなく微笑みながら、

「では、折角お集まりですので、お説教（ご法話）でも致しましょう。」

と言って、昔取った杵柄と言いますか、お話しが始まったのです。その頃の祖電さんと言えば、ご法話を勤める際、目を瞑って自分の世界観の中で呟くように話すスタイルでしたので、集まったお年寄りにはほとんど聞こえていない様子でありました。むしろ子守歌のような感じで、時間の経過と共に、一人、また一人と眠りに落ちていくお年寄りたち。15分も過ぎると全滅というか、全員が眠ってしまっている状態でした。傍にいた職員も薄ら怪しい感じでしたが…。それでも目を瞑っている祖電さんにとっては問題ないわけで、結局、30分、ご法話を勤めあげ、突如、**〝終わります！〟**と言って急にご法話が終わります。すると、職員が慌てて眠っているお年寄りたちを起こして、

「起きて、起きて、お話し終わったよ～！」

と声を掛けたのですが、お年寄りたち、目が覚まして、合掌しながらこう仰いました。

「今日はありがだがったぁ～。」「良がったぁ、安心したぁ～。」

何も聞いてなかったのに…。当時はそう思っていましたが、振り返ると、言葉を超えた世界観の中で、話の内容が聞こえていなくても、**〝ありがたかったなぁ〟**と喜びあえる世界観が存在する。言語化が難しいのですが、高齢の方々には、**〝今日こうして、この場に出会えた〟**という場の力と言いますか、豊かな世界観が存在するという事を、祖電さんとお年寄りたちに教えられたのです。

言葉は大事。それでも言葉を必要としない、感性で通じ合える感覚も大事にして参りたいものです。

(2) 連絡事項 【講話 ＝ 理事長、① ＝ 生活課長、② ＝ 事務課長】

① Yさんの面会にいらしていたご家族がコロナ陽性と連絡が入りました。今のところYさんの状態変化はありませんが、日曜日の接触ですので、金曜日までの5日間、経過観察と対応を宜しくお願い致します。また、世間ではインフルエンザも流行っているようですので、会食等ある場合は気に掛けて参りましょう。

② 秋の健診が8/31と9/7にあります。該当者は予定表の通り健診を受けて下さい。